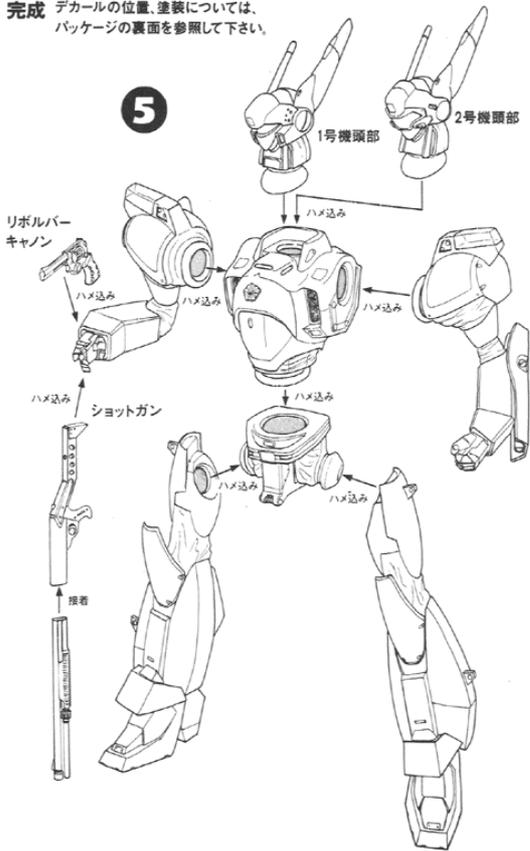


## 第6回 1/35イングラム (ファイア)の巻



1980年代後半に登場した『機動警察パトレイバー』はコミック・OVA・劇場映画への展開やそれまでの常識を打ち破った低価格映像ソフト(30分のソフトの相場が9800円位だったのにいきなり4800円)の発売という内容とは全く別のところでも画期的な作品でしたが、立体商品の展開に関して特筆すべき物があります。80年代中頃までは四角いロボットは上手く複製できないと言われていたレジンキャストキットは着実に進化を続けており、(完成出来たならば)ガンプラ並みの可動をこなすキットすら現れていました。もっともその様なレジンキットの価格は時として同サイズのガンプラの10倍にも達し、誰でも手にすることが出来る存在というには程遠かったのです。そこに登場した『パトレイバー』が映像ソフトに続いて立体商品でも価格破壊を目指すのはある意味自然の成り行きでした。ガレージキットメーカーが目をつけたのはソフトビニール(ソフビ)という素材でした。従来から幼児向人形等に用いられているこの素材は金型代が安価で済み割れにくいという長所があり、材質の配合や成型技術を改良することにより低価格でボリューム的にも満足できるロボットキットを世に送り出すことが出来たのです。

完成 デカールの位置、塗装については、  
パッケージの裏面を参照して下さい。



「パトレイバー」のソフビキットは主に老舗の海洋堂やバンダイのガレージキットブランド・B-CLUBから発売されていました。この内海洋堂のキットは動きのあるカッコ良いポーズを低価格で再現し、B-CLUBは素立ちの美しさと豊富なオプションが売りでした。そしてもう1社、今回取り上げるフィアはソフビキットというジャンルの成立に合わせて登場した新しい会社で、「ロボコップ」等の海外物も含めソフビキットを積極的にリリースしていました。このイングラムはコミック版初期のタイプ(グリフォン戦で大破)を再現しており、基本ポーズは素立ちながら間着(はめ込み)部分の工夫によりある程度ポーズを取らせることができます。また、コミック版では頭部のみの変異(OVAでは**レッドショルダー**)である2号機に組むことも可能で、レジン製のリボルバーキャノンとライアットガンが付属しています。更に肩部パトライト用に赤い透明部品も付属するという凝り様でした。

学生時代、後輩の部屋でこのキットの存在を知り痺れてしまいましたが、地方の悲しさで二度と入荷せず、結局入手出来ませんでした。写真はインターネットのオークションで購入したものです。当時の作例記事でこのキットに針金の芯(骨)を入れて可動させるというのがありずっと憧れていましたが、現在ではマスターグレードも有る(当然購入済)のでより簡単に実現出来そうです。その折には強力な助っ人も投入する予定です。

### キットデータ

メーカー	フィア
スケール	1/35
材質	ソフトビニール
当時価格	3800円(税抜)